

絵本「稲むらの火」(エスペラント・英語・日本語版) 贈呈先と反響

仙台エスペラント会 (報告：手塚孝さん)

(公立図書館)

宮城県図書館、仙台文学館、仙台市民図書館 (以下「図書館」省略)、仙台市広瀬、仙台市宮城野、仙台市都榴岡、仙台市若林、仙台市太白、仙台市泉、塩竈市民、名取市、多賀城市立、岩沼市民、亘理町立、利府町、白石市、角田市、丸森町立金山、大崎市、栗原市立、登米市立迫、登米市立登米、石巻市、東松島市、気仙沼、本吉、南三陸町、

(児童館・公民館・その他)

亘理町中央児童センター、岩沼市南児童館、多賀城市鶴ヶ谷児童館、七ヶ浜町中央公民館、津波体験館 (気仙沼市唐桑)、山元町歴史民俗資料館、(公財) 仙台ひと・まち交流財団 (仙台市内児童館の指定管理者のひとつ；4部送付)、ふれあいエスプ塩竈、リアス・アーク美術館、宮城教育大学附属図書館、宮城学院大学図書館、尚炯学院大学図書館、仙台白百合女子読書推進活動ボランティアグループ「おはなしポッケ」(冠文堂書店)、ビルド・フルーガス、(去年の東北 E 大会で被災地訪問した) [NPO 地球のステージ]、仙台市立太白小学校、河北新報社、SES 蔵書、(海外) クライストチャーチ・エスペラント会；2部、

注) ●3・11 震災直前に大震災のあったニュージーランド・クライストチャーチ E 会との共通被災地経験 E 会同士の交流に役立てる、●仙台 E 会の三瓶圭子さんが、太白小学校での読み聞かせ授業で「稲むらの火」を取り上げた。38名の小学生が熱心に聞き入った。読み聞かせ後、絵本の発行経緯やエスペラントの事にも言及した。同校校長は三瓶さんからの絵本の贈呈に喜び、三瓶さんがエスペランチストであることにも驚いたようです。

福島エスペラント会・ロンドマーヨ (報告：佐藤礼子さん)

福島県立図書館、福島市立図書館、福島市内の3学習センター、福島県国際交流センター、、伊達市の6中学校、伊達市教育委員会、OECD 東北スクール、など。

注) ●佐藤礼子さんの知人である元福島大学教授高野保夫氏 (伊達市教育委員長) の紹介で佐藤さんが伊達市の各学校に寄贈の絵本を伊達市教育長に直接に手渡す機会を得た。教育長にも1冊贈呈。(写真：左から伊達市教育委員長高野保夫氏、伊達市教育長湯田健一氏、佐藤礼子さん)



●また、高野保夫氏の助言を得て、OECD 東北スクール（2011年4月に OECD 事務局長が来日した際に被災地の人材育成のために提案した復興協力に対し、2013年3月から福島大学などが支援する復興教育プロジェクト事業）にも贈呈。この中高校生100人（リーダー；佐藤 陸さん）が来年の2014年にパリで、被災地での経験や地元の人々のがんばりを世界に発信することになっている。パリ訪問の機会に向けて、この絵本「稲むらの火」は、学生たちの海外発表における良い資料になるものと期待されている。

いわきエスぺラントクラブ（報告：塩見元彦さん）

同地沿岸部は甚大な被害を被ったため、亡くなった学堂・学生もあり、それらの生徒たちが在籍していた小・中学校20校の図書室に1部ずつ贈呈した。

イーハトヴ・エスぺラント会（報告：佐々木律子さん）

宮古市教育委員会のはからいで、市内にある小学校26校と市立図書館4館で活用される（贈呈部数：30冊）。

注）●県内の沿岸市町村は軒並み被害を受けているため、少ない部数での選定に悩む中、宮古市教育委員会から「ありがたく寄贈を受けたい」との返事があり、教育委員会に30部（宮古市内小学校26校、同市立図書館4館）を送付。8月23日に同教育委員会より礼状が届く。

藤沢エスぺラント会（報告：影山美知子さん）

湘南台中央図書館、鎌倉図書館、行政センター腰越、大船玉縄、茅ヶ崎小学校（防災の教本としていただいてもらうべく同校長に依頼）に贈呈した。

沼津エスぺラント会（報告：藤巻謙一さん）

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、地元ローカル紙に絵本を添えて「無料配布の案内」を記載してもらうべく依頼。6月27日の毎日新聞朝刊地方版に記載された。この呼びかけに、静岡県防災センター、静岡県立大学の先生方から照会があったため贈る。ホームページにも案内記載し、7月9日時点で、残部2冊になった。

注）●毎日新聞朝刊

—絵本冊子：「稲むらの火」3言語で紹介、沼津の団体、無料配布 / 静岡—

エスぺラント語普及に努める「沼津エスぺラント会」が、エスぺラント語、英語、日本語の3言語で「稲むらの火」を紹介した絵本冊子。

「稲むらの火 浜口梧陵（ごりょう）のはなし」（B5版、44ページ）を希望者に無料で配布している。…

和歌山緑丘会（報告：江川治邦、英語グループ・山田恭久さん）

（公立図書館・コミュニティーセンター図書室、他）

和歌山県立図書館、和歌山市民図書館、市立中央コミュニティーセンター、市立河北コミュ

ニティーセンター、市立北コミュニティセンター、市立中央公民館、わかやま絵本の会文庫、田原学園、

(防災センター)

アジア防災センター(神戸市)、大阪市立阿倍野防災センター(大阪市阿倍野区)、稲むらの火の館「濱口梧陵記念館・津波防災教育センター」(和歌山県広川町)、

(和歌山市内のユネスコ・スクール)

星林高等学校、伏虎中学校、広瀬小学校、に各2冊ずつ贈る。

(県内の防災教育に取り組む小・中学校3校にそれぞれ40冊)

和歌山市立明和中学校、紀南地区の那智勝浦町および串本町の最も低地にある学校の防災教育の教材として使用すべく現在教育委員会で選考中。

(県内教育委員会)

和歌山県教育庁防災安全課、和歌山県教育庁生涯学習局、和歌山市教育員会学校教育部、和歌山県那智勝浦町教育委員会、和歌山県串本町教育委員会、

(新聞社)

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、ニュース和歌山、わかやま新報、

(アジア太平洋地域を中心とした海外23ヶ国)

米国(カリフォルニア、フロリダ、サンタバーバラ)、マレーシア、キューバ、ドミニカ、トルコ、台湾、フィリピン、インドネシア、バングラデッシュ、タイ、ヴェトナム、パプアニューギニア、スリランカ、シンガポール、パキスタン、オーストラリア、インド、英国、ポーランド、中国、オーストリア(E博物館)、カナダ、

(その他)

和歌山県庁知事室(知事および広報課)、和歌山ユネスコ協会
エス会員がいきつけの病院や郵便局、等に置く。

(協労グループ)

わかやま絵本の会：

会員のすべてに贈られた(約100名)、絵本の会文庫(龍神村)、

英語グループ：

元広川町中央公民館長、広川町中央公民館、広八幡神社、稲むらの火館、紀央館高校図書室、耐久高校図書室、木津中学校、耐久中学校、広川町教育委員会、地球のステージ(桑山紀彦宛)、岩手県宮古市立新里中学校(佐々木匡人先生)、岩手県陸前高田市立気仙中学校(中里勝明先生)、和歌山ヒップファミリークラブ、和歌山県国際交流協会、ヤマサ醤油、和歌山県教育委員会英語教育担当(上出 恵 先生)、京都外国語大学校友会和歌山支部、武蔵野市国際交流協会、他、

注) ●2013年10月26日に東京(明治大学)で「濱口梧陵シンポジウム」が和歌山県主催で開催される。パネラーの一人でもある県知事にも贈る。●県内各地教育委員会の協力を得て、県内低地にある3校で総合的学習の時間での防災教育の教材として使用される。●浜口梧陵は、現在、千葉県銚子市にある(株)ヤマサ醤油の先祖(7代目社長)に当たるため英語グループが、現代表取締役社長 濱口道雄氏に贈ったところ、礼状をいただき、同

社銚子工場の見学ルートにある展示室で展示される事になっている。●絵本の「あとがき」を執筆した清水勲氏（元耐久高校校長、元広川町公民館長、当地生涯学習塾「耐久大学学長」で濱口梧陵翁の語り部）は、エスペラントで日本各地のみならず世界各国に絵本が贈られ読まれる事に感銘され、青年期にエスペラントを学ぶべきであった、と悔やんでいた。梧陵が建てた防波堤が現存しており、町興しにとりくんでいるが、今後は世界の防災拠点としての位置づけを定着させるべく、顕著で普遍的価値のあるユネスコ遺産にも推奨してゆきたいとがんばっている。現在は各国の防災機関や JAICA 等の国際機関からの視察が増加している。●日刊わかやま新報（2013年6月13日）：エスペラント語、英語、日本語—3言語で世界に発信—絵本「稲むらの火」発行、と題して6段抜きで記載される。

(2)

2013年(平成25年)6月13日(木曜日)

(日刊) わ か や ま 新 報

エスペラント語、英語、日本語

3言語で世界に発信

絵本『稲むらの火』発行

世界共通言語エスペラント語の普及に努める、県エスペラント会とわやま絵本の会などをつくるグループ・インテルボローが、絵本『稲むらの火 浜口梧陵のはなし エスペラント語・英語・日本語版』(文・松下知恵、絵・藤井博之)を発行した。平成17年に600部が発行され、世界のエスペラント会を通してトルコなど海外にも送られ好評を得た初版に、より分かりやすく翻訳に改良を加え再出版した。

絵本は、江戸時代の江川治邦さんは、国境を越えて人の心る。海岸線が長い県に現在の広川町で村人津波被害から救い、自費を投じて村を守る堤防を築いた浜口梧陵の生涯を紹介したもの。文章はエスペラント語、英語、日本語で書いて発行した1150部のうち350部は、東日本大震災の被災地や、南海トラフ大地震や津波被害が懸念される高知、宮崎、徳島の小中学校などに無償で提供した。また近年、津波被害に見舞われたアジア、太平洋諸国や、英国など21カ国に42部を送った。

県エスペラント会

絵本を手に山田さん(左)と江川さん

酒蔵開放イベントに1800人

中野BCが「梅酒BAR」

海
南
市
藤
白
の
酒
造
会
社
、
中
野
B
C
(株)
(中野幸生社長)は9

海 南

日、「梅酒AR」梅酒を楽しむ会を開催。酒造会社と中野BCが、酒蔵開放イベントに1800人参加し、にぎわった。県が誇る梅の酒を梅酒を通して、てらおと開く、こしで目的人气イベントの広大な敷地が、この日はお会場になる。

構内にはつまや井などさまざまな飲食ブースが並んだ

る美談は多い。串本沖のエルトゥール号の話などともに国内外に県の美談を発信したい。英語翻訳を担当した山田恭久さんは「地元の人に地元のことを知ってほしい。昨今の地震や津波の被災者の少しで

・461・222
4まで。

和歌山工が
県高校ラグビー

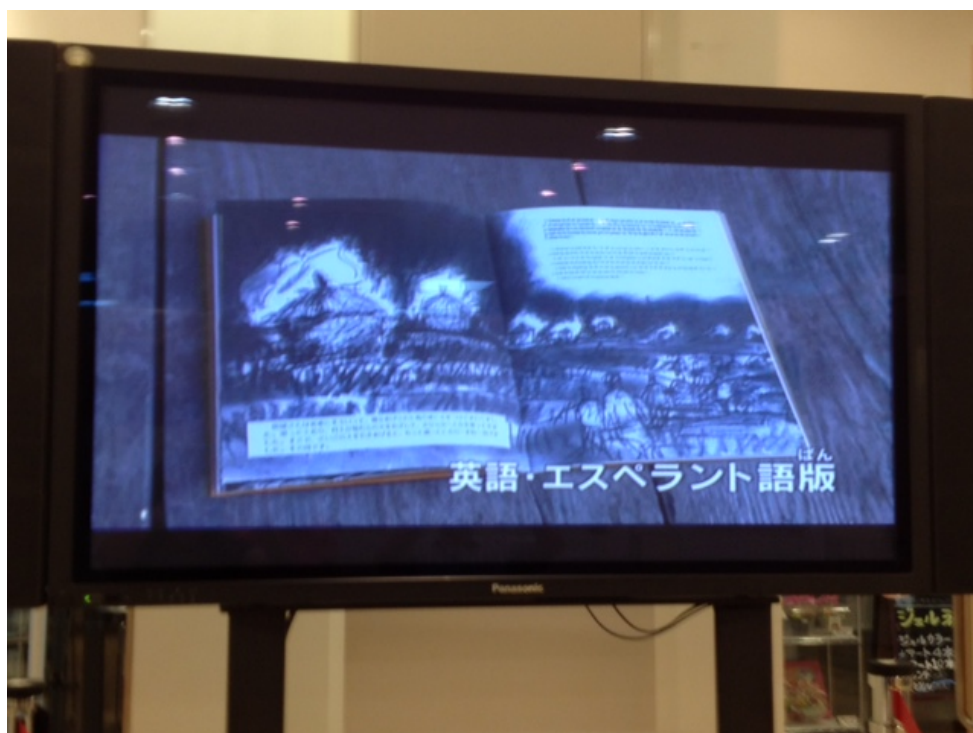
県高校ラグビー
県高校ラグビー

権・国体予選の決
が9日、上富田フ
ッセンターBで

も助けになり、防
教育の手助けにな
ばと話している

県内では県立図
館、和歌山市立図
館などの他、学校
施設などに寄贈し
いく。問い合わせ
江川さん(TEL07

●アジアの防災拠点のアジア防災センターからは「貴重な絵本を館内展示し、防災教育に役立たせていただきます」と電話をいただいた。●濱口梧陵記念館・津波防災教育センターからは「館内展示し、防災教育に供したい」と礼状をいただく。すでに、同館では初版の絵本を県民の防災教材のDVDに織り込んでおり、この絵本と共に「エスペラント」という字句がDVDの中で紹介されている。以下ご参照。



鳴門エスペラントクラブ（報告：木谷奉子さん）

（公共機関）

徳島県防災センター、国際交流協会、

（公立図書館）

徳島県立図書館、徳島市立図書館、鳴門市立図書館、

（大学図書館）

徳島大学図書館、鳴門教育大学図書館、

（小学校図書館）

鳴門市撫養小学校、鳴門市鳴門西小学校、鳴門市大津西小学校、松茂町立松茂小学校、

（小学校国際交流クラブ）

松茂小学校インターナショナルクラブ 12名、

撫養小学校国際交流クラブ 10名

注）●それぞれの所に贈呈し、三ヶ国語の言語で書かれていることに驚いていたが、エスペラントに関しては認知度が低く、エスペラントについて簡単な説明を加えながら手渡した。二つの小学校の国際交流クラブの児童22名と教員4名に対しては関西大会の和歌山での取り組みについても説明し、貴重な本を贈られた事に全員に感謝された。家庭に持ち帰り、家族とともに一緒に読むように勧めた。あと10冊ほど残っているが、来るかも知れない南海大地震に備えて防災教育をしている徳島県南部の学校に贈るべきか、海外で日本語を勉強しているエスペランチストに贈るべきか思案中。

高知エスぺラント会（報告：江崎瑞枝さん）

（市町村別の小・中学校配布先）

土佐市： 宇佐小学校、土佐南中学校、

須崎市： 南小学校、須崎小学校、新莊小学校、南中学校、須崎中学校、

中土佐町：上の加江中学校、

四万十町：高津小学校、高津中学校、

黒潮町： 佐賀中学校、

四万十市：八束中学校、

9月27日に、中島暁さんが宿毛市と土佐清水市の10校を訪問され、寄贈する手配である。

注）●南海地震があった場合に想定される津波の高さと海岸線からの距離を考えて、差し迫って問題になる学校に優先的に贈るべく会員が協力して、9月より1校ずつ学校を廻り贈呈する計画を立案した。●（中島暁さんからの報告）「和歌山からの熱い思いが伝わっているような気がします。わざわざ贈呈先の校長が帰り際に、玄関先まで見送ってくれます。ありがたいことです。明日は宿毛市と土佐清水市の10校を訪問予定です！ 絵本のおかげで、高知県内で楽しい旅ができています」と。

苫小牧エスぺラント会（報告：星田淳さん）

星田さんが交友関係のある学校教師に呼びかけて、ニーズのある学校を選んで贈呈するべく行動中。

千葉エスぺラントクルーボ（報告：相原美沙子さん）

現在、会員が協力して贈呈先を選び、可能な限り送付に向けて行動してゆく。

宮崎エスぺラント会（松本淳さん）

宮崎市内の中学校25校に配布（大規模校に2部ずつ、小規模校に1部）。

宮崎市立図書館にも1部寄贈する。

注）●6月8日付けで宮崎市学校教育課課長あてに依頼文書を送付。6月10日に宮崎市学校教育課指導主事より電話があり、宮崎エス会の松本さんと浜田さんが学校教育課を訪問し、38部を寄贈する。学校現場からの読み聞かせ等の依頼を想定し、1部を宮崎エス会の保管とする。反省点：事前に現物1部を見せて、使い方と部数を学校教育課と検討した上で、絵本の受領部数を確定し、寄贈すべきであった。